

教育文化部会 会議録

（出席者） 委員：8名
事務局：4名（戦略部会員：3名、政策推進課：1名）
アドバイザー：1名
ファシリテーター：1名

（会議の内容）

1. はじめに

資料1に基づき、第6回まちづくり市民会議（第5回部会）の会議録について内容を確認し、公表に当たっての承認を得ました。

資料2に基づき、第7回まちづくり市民会議の検討の進め方について事務局から説明しました。

2. 報告事項

資料3に基づき、総合計画の改定状況について事務局から説明しました。

資料4に基づき、幸福度の設定について事務局から説明しました。

3. 検討事項

資料5に基づき、「市民会議からの提案（重点的に取組んでほしいもの）について」「市民協働モデル事業について」「分野別の計画素案について」事務局から説明し、検討を行いました。（検討の内容は次ページ以降に掲載。）

4. アドバイザー総括（アドバイザー）

本日の会議についての総括を行っていただきました。（内容は次ページ以降に掲載。）

5. その他

今回の会議は全体会となるため、市民会議幹事のスケジュール調整により後日決定すること、全体会では市民会議幹事からの「市民会議からの提案（重点的に取組んでほしいもの）について」「市民協働モデル事業について」の2つについて発表を行うことを報告しました。

各委員に、ふり返しシートを配布し、会議後1週間を期限に、提出をお願いしました。

<主要プランについて>

【アドバイザー】

生徒数の規模の適正化ということで、資料でこの言葉を見たときに、やはり統廃合をしたかったのかなという印象をもった。個人的には学ぶための環境整備のことを入れた方がいいと考えている。

【委員】

学校がなくなるという警鐘が出てきたのはすごいことである。適正化というと学校が合わさり、なくなるというようにも捉えられる。また統廃合というとマイナスに捉えられがちである。モデル事業で出てきたように「開かれた学校づくり」という形ならばポジティブに受けとられる。

【委員】

私が住んでいる地域は、生徒が増えてきて教室が足りなくて困っている。従って、地域によって状況はそれぞれで、一概に田原市全体が少子化により困っているということとは言えない。

【事務局】

生徒が増加している地域もあるので、そこに応じた整備や環境を整える必要があると考えている。「少子化に伴い児童生徒数が減少している地域が見られ、生徒数の規模の適正化」という文言は、適切な文言に修正することにする。

【委員】

文化・芸術・スポーツがある地域づくり、若い世代の田原市の歴史・文化伝承等については、次の世代につなげることや地域を知る、ということが大事である。文化や産業はもちろん、田原市はどういうまちかということを知らしめていったらよいと思う。それは地域を愛することにつながり、田原を出ていかない、つまり人口問題の解決につながることになる。

【委員】

全部がつながってくる。一つの問題を検討すると、すべてがつながるのが分かる。都市計画を考えると学校のことがでてくるし、芸術の分野でも若い人たちが興味をもたないのは小さい頃からの教育だったり、機会がないからである。興味深い対象を彼らに提供することが出来れば、変わることもあるのではないだろうか。

データによると、スポーツの振興に関して、体を動かす人は減っていても市主催のスポーツイベントに参加する人は増えている。また文化財に関しても、施設の利用者は増えている。これはいいイベントや事業が実施されていることのあらわれである。また団体への登録者数は減っているのに、イベントへの参加者は増えている。色々なことが複雑に絡んでいるので、1つのことを

突き詰めて意見を言うのはむずかしい。

【事務局】

主要プランの意味合いは、今後10年間という短い期間や限られた財源のなかで、本当に重点的に取組もうとするものをとりあげている。総合計画というと、何でも書いてある計画と捉えられるが、実際に何をするのかということと分かりにくいところがあった。各分野、今回の場合では教育の分野では、力を入れていくところを取り上げて書いてある。現在、主要的に4つの項目が書かれているが、これらを柱としていくことで、その周辺にも波及効果が生まれる事を期待している。

次回の市民会議は全体会でやろうと思っている。他の部会の検討状況を確認するなど報告会を行いたい。

【委員】

「個性と才能を育むひとづくりのまち」がとてもいいと思った。田原で、個性を認められる、才能を伸ばす事ができるまちづくりができれば、本当に素敵だと思う。

【委員】

③の「若い世代」へというのが気になる。「若い世代」と限定するのではなく、後から市民になられた方なども含めて考えたほうがいいのではないだろうか。田原にある伝統、田原と小説家・泉鏡花とのつながりやミステリーや怪談なども含めて知らないことも多いので、いろいろな人にそのようなことを伝えていく、継承していくことができると考えている。

【事務局】

地域の色々なこと、言い方は変かもしれないが、地域の資源を守り、伝えていくということも書き方として検討したいと思う。

【アドバイザー】

前回までは具体的な事柄を取り上げて話を進めていたが、今回は次の段階、もうひとつ上の計画になる時、どういう形になるかということを見せてもらうことができよかったですと思っている。市民協働モデル事業の開かれた学校づくりについては、みなさんかなり熱心に取組み、議論されていたので、ぜひ進めてもらいたいと思う。

今日の会議を通して個人的に気付いたことに、価値観の多様化、流動性がある。これは総合計画にも貫かれている立場である。一方、教育は世代を、文化をつないでいく側面をもっている。そういう意味で教育は難しいと思った。流動化、多様化していくことを認めながらも、つないでいく文化が必要になってくる。そのバランスをどうするか。それはこの机の上で考えていても答えは出てこない。一人ひとりがその場で取組んでいくしかないと考える。